



川柳 250 年式典



8月25日、台東区生涯学習センター・ミレニアムホールにて、川柳 250 年式典が行なわれた。これらの行事は、文化庁をはじめ、川柳のふるさと江戸から引き継がれた東京都および発祥の地・浅草新堀端がある台東区など後援得て、文化としての川柳発祥 250 年記念祝賀行事となった。

等身大の初代川柳が端座するステージにおいて式は厳かにはじまり、前田安彦（前田雀郎長男）実行委員長のあいさつの後、服部ゆくお都議会議員、本田智彦全日本川柳協会事務局長の祝辞があった。いずれも、川柳という人々に愛されてきた社会詩の発祥を祝賀するもので、この日、この場で共に慶びを分かちあえる幸せを噛みしめた。

かねて募集され、全国の代表的川柳選者（十五世・脇屋川柳、北海道・斎藤大雄、新潟・大野風柳、宮城・雫石隆子、東京・尾藤三柳、台東区・大川幸太郎）によって選ばれた〈平成万句合〉に入選句表彰が行なわれ、6 人の選者のうち 5 人が推薦した、

おひさまの下で乾かず世界地図
新潟県 梅田幸恵
が最優秀賞（賞金 10 万円と初代川柳記念メダル）を獲得。ほか 8 作品が受賞。

奨励賞として、15歳の高校生

太陽がまだ洗濯物の中にある 東京都 本田しおん
ほか10名のジュニア作家が表彰された。

〈平成万句合〉は、全国の〈連〉(作品取次所)より集まった句を連ごとに各選者が3%ずつ推薦し、ポイントの高いものを上位とした。総集句は14517句。2点以上の入選は183句。1点以上の外フシ(準入選)は1302句であった。



前田実行委員長より表彰を受ける15歳の本田しおんさん。



笑顔で講演の山下一海名誉教授

引き続き第三部は、鶴見大学名誉教授・山下一海先生より「蕪村の諧謔一川柳興隆の気配一」の講演があり、俳諧を祖とする俳句と川柳の関連と発展を興味深く聴講。山下先生の講演を聞きたいと、川柳とはこれまで無縁の方々も多く参集していたが、先生のおはなしに、川柳への興味を深くしていたのは嬉しい。

にて朗々と披講される句に呼名が呼応。句会独特の雰囲気醸し出した。各題の選者と入選作品は以下の通り。

宿題「新しい」 北海道 斎藤大雄選

ニュータウンそして田んぼがまた消える 北海道 浪越靖政

宿題「堀」 青森県 北野岸柳選

消えた年金置いていけ堀に似てないか 東京 植竹団扇

宿題「栄える」 宮城県 雫石隆子選

ふるさとが栄えるように鶴を折る 高知 北村泰章

宿題「樽」 新潟県 大野風柳選

日本語で必要なときしゃべる樽 大阪 天根夢草

宿題「芽ぶく」 大阪府 天根夢草選

百会からグングン伸びてくる新芽 広島 河崎あゆみ

席題「蔵」 東京都 大川幸太郎選

お祭りの雪駄が好きな吾妻橋 千葉 菅井京子

席題「橋」 東京都 脇屋川柳選

お祭りの雪駄が好きな吾妻橋 東京 野中いち子

席題「江戸」 東京都 尾藤三柳選

打ち水で冷やせる程の江戸の町 東京 坂牧春妙



句会風景と特選作家に与えられた初代川柳の肖像を浮き彫りにした川柳250年記念メダル。



実行委員会を中心に、協力スタッフ73名、総参加者は306名、うち、川柳家以外が112名という式典で、成功裏に川柳を文化として社会へ発信することができた。

<問合せ・ご意見>

川柳250年実行委員会事務局

事務局 尾藤一泉

〒114-0005 東京都北区栄町38-2

e-mail: senryu250@estyle.ne.jp

電話: 03-3913-0075

Fax: 03-3913-1512

URL: http://www.senryu-gakkai.com/senryu_250/index.html